



青き楓

島高だより
令和2年10月号
(通巻第175号)
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から

旗手とは

校長 渡邊 孝経

今年は創立120周年の年で、先日、開校記念日を迎えた。

島高120年の歴史は、明治33年の開校の県立島原中学校を源流とし、島原高等女学校、島原商業学校を加え、昭和23年の学制改革を通して県立島原高等学校となり、昭和31年に島原商業高校の分離・独立を経て、今日に至る。

正門入って右側に創立百周年記念碑がある。

「百年の星霜を以て磨かれた学究的で礼節を尊ぶ校風が永遠に継承され、真善美を求めること真摯な青き楓たちが新しい世の旗手として雄飛することを願いつつここに刻む。

島原中学校、島原高等女学校、島原商業学校の流れを集めて大河となった島原高等学校は、明治、大正、昭和、平成と時代を越え西暦二千年に創立百周年の慶節を迎えた。向学の志に燃えここに集い理想を求めて切磋琢磨した若人三万有余、その青春の夢を育み人格形成の舞台となった母校に感謝の誠を捧げ、秋岳館建設をはじめ関係者の総力を結集した創立百周年の全事業の成就を記念してこの碑を建立する。」と記されている。

これは平成12年11月4日創立百周年記念事業実行委員会によるものであるが、当時の校長寺田隆士先生が述べられた碑文である。

そこから20年、今なお「旗手」という言葉が島高生を語る上での鍵となっている。寺田校長は「旗手」について、創立100周年記念式典の式辞の中でこうもおっしゃっている。「『旗手』とはリーダーのことです。しかしそれは、決して人の上に立つ人のことではありません。進むべき道を定めつつ自ら先頭を歩く人のことです。先頭を歩く人には重い責任が伴います。それでも敢えて先頭を歩く心意気が必要です。また、人を愛する暖かく広い心がなければ人は続いてくれません。しかも、広い視野で情報を得て整理し、自ら考え、的確に判断する力が必要です。遠くを見通す力と、目に見える世界の奥に潜んでいる本質を見抜く力も必要です。自分の思いを相手に分かりやすく豊かな言葉で伝える表現力も必要です。そして何よりも大切なことは、自分一人の利益より全体の幸福を優先する『自己犠牲の精神』がなければなりません。

今ひとつ、特に『21世紀』の旗手に求められるのは、『共に生きる』という『共生の精神』です。これまでは、ともすれば自らが属する集団の幸福を省みないリーダーが多かったように思います。『共生の時代』と言われる21世紀のリーダーには、自らの集団と他の集団の利益を調和させることが重要な課題となります。そのことは言葉で言うのは簡単ですが、実際にはとても難しいことです。本当の意味での深い深い知恵と、物事を徹底して考え抜く忍耐力が必要です。

生徒諸君、君たちには、今申したような全ての意味をこめて『21世紀の旗手』になってほしいと願います。」

20年前の生徒が掲げた「旗手」という言葉が、今なおあせることなく、使い続けられ、島高生の道しるべとなっていることを、誇りに思う。

11月の主な行事予定

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1日(日)開校記念日 | 17日(火)体育部活動支援学習会(～19日) |
| 3日(火)、7日(土)大学別オープン模試(3年) | 考査時間割発表・部活動休止(1・2年) |
| 6日(金)県高校駅伝大会 | 18日(水)交通安全講話 |
| 10日(火)消費者教育 | 21日(土)全統マーク模試(3年)(～22日) |
| 理数教科課題研究中間発表 | 24日(火)期末考査(1・2年)(～27日) |
| 11日(水)情報モラルマナー教室 | 28日(土)土曜講座(3年) |
| 14日(土)土曜講座(3年) | 30日(月)修学旅行(2年)(～12月3日) |



読書感想文校内コンクール



1・2年生の夏休みの課題として提出された読書感想文から、事前審査によって数編を選び、生徒、職員がそれぞれの作品を評価します。本を通して見えた社会や自らの思いを、高校生らしい豊かな感性で瑞々しく表現しており、有意義な校内コンクールとなりました。今年度は上位2名が県のコンクールへ進出します。

最優秀賞

1-2 松川 瑞季 「75年前の出来事」
(アンネ・フランク『アンネの日記』)

優秀賞

2-3 池田 小雪 「自分で誰かの靴をはいてみること」
(ブレイティみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』)
1-5 板木 賢 「二人が残した思い」
(マーク・アロンソン&マリナ・ブドーズ『キャバとゲルダ』)

優良賞

2-1 太田 侑杏 「『星の王子さま』を読んで」
(サン＝テグジュペリ『星の王子さま』)
2-4 本村 瑞菜 「罪を犯すこと」(東野圭吾『手紙』)
2-3 小島 凜花 「『82年生まれ、キム・ジヨン』を読んで」
(チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』)

2年生 進路講演会

進路選択に向けて
～後悔しない！自分の“進”む“路”を選ぶ～

■10月6日(火) 2学年進路 木村 知弘

中間考査最終日の午後に進路講演会を行いました。講師にベネッセコーポレーションの池松翔太先生をお招きし、「進路選択に向けて～後悔しない！自分の“進”む“路”を選ぶ～」と題して講演をしていただきました。共通テストではこれからの社会で求められる能力が問われることや一般入試でも志望理由書を課す大学が多いことなど、新しい入試制度について、わかりやすく説明していただきました。また、進路選択に悩む子どもたちに対して、具体的な進路選択の方法を教えてくださいました。子どもたちは、学びに対する目的意識を高め、勉強に対する気持ちを新たにしていました。

3年生 激励会

■10月8日(木) 3学年主任 村上 嘉則

共通テストまであと100日という節目の日に3年生激励会を開催していただきました。共通テスト本番が近づくなか、3年生は必死に学習に取り組んでいます。また、公務員試験や学校推薦型選抜、総合型選抜を受験する生徒もおり、志望校合格を掴み取るために日々努力をしています。

激励会では異動された先生方からのビデオメッセージが流れた後、PTAから激励のメッセージが入ったしおりをいただきました。さらに1・2年生から応援の色紙が手渡され、多くの人たちに支えられ、応援されていることを改めて感じるとともに、何が何でも志望校合格を掴み取ろうという気持ちを高めることができる激励会となりました。3年生の各クラス代表生徒も決意表明を行い、志望校合格に向けた決意と日頃から支えてくれる方々への感謝の気持ちを述べました。これから一日一日を大切にしながら仲間たちと共に、志望校合格を掴み取るまで突き進んでいきましょう。勝負の日が刻一刻と迫るなか、苦しい時期は必ずあります。そのような時こそ共に学ぶ仲間の姿や家族の励まし、教職員の激励を力に変えて乗り越えていきましょう。

